

## 繁殖肉用牛複合経営の成立要因と経営方式の確立に関する研究

複合経営農家の意向調査

窪園順一郎・田原孝二・石神信男

(鹿児島県畜産試験場)

県内の繁殖肉用牛複合経営農家の現状と将来の志向を調査したので報告する。調査は肉用牛子牛の主要生産地帯である曾於、肝属、始良、薩摩の各郡を対象に、成牛5頭以上を飼養する複合経営農家から141戸を選び個別訪問による聞き取りで行った。

1. 調査農家の概況では、1) 平均耕地面積は246aで県の1戸当り平均耕地面積81.3aに比べてかなり規模は大きい。2) 肉用牛の現在頭数は平均7.6頭で、茶、水稻、甘藷との複合では平均より多頭となっている。逆に養蚕との複合では6.8頭と少なく、特にこの組合せは季節的労働競合が頭数規制の一要因と考えられる。3) 農業後継者については、「有る」と答えた農家45.4%で、半数以上の農家が「あとつき難」となっている。

2. 農業経営の将来の志向については、肉用牛単一型9.9%、肉用牛主の複合型59.9%、肉用牛従の複合型32.6%、その他3.5%で63.8%の農家が肉用牛を主幹作物とする複合経営を志向している。特にこの傾向は甘藷、水稻+甘藷、茶との複合農家に強く、肉用牛部門所得への期待が大きいと言える。

3. 肉用牛の将来の計画では、増頭したいとする農家60%、現状維持37%、残りの3%が減らしたいとしている。これを作物別にみると、増頭意欲は甘藷、水稻、水稻+甘藷、園芸、養蚕との複合農家に強く、現状維持は茶、煙草、果樹との複合農家に多くなっている。調査農

家の将来の計画頭数は平均10.5頭となっており、作目間に若干の差はあるが、この頭数は複合経営における肉用牛飼養頭数の一応の目安と考えられる。

4. 農業経営に肉用牛を導入した理由については、①堆厩肥の利用、②牛が好きである。③余剰労力の活用と老人婦女子でも飼える。④現金としてまとまる。⑤危険分散と経営の安定。⑥土地の立地条件などを上げている農家が多い。

5. 現在の農業経営で困っていることについては、①農産価格の不安定、②耕地の確保難、③他作物との労働競合、④飼養技術の未熟、⑤飼料の高騰等を上げている農家が多い。

6. これらのことから、繁殖肉用牛を5頭以上飼養する複合経営農家の場合、水稻+地域の有利作物+肉用牛との複合型の中で、肉用牛部門を中心にした経営の集約化、規模拡大の傾向がみられるが、耕地や後継者の確保難、労働の競合と質の低下、自己資金の不足などを問題とする農家もあり、規模拡大の阻害要因になっていると思われる。

今後繁殖肉用牛を中心にした複合型経営の拡大及び安定化を図るためには、収益性の安定した作物を組合せ、土地の有効利用による粗飼料の増産、加工貯蔵などによる粗飼料給与体系の改善と併せて増頭、優良種雄牛の適正交配を推進する必要があると思われる。

調査農家の概況と経営志向

(昭和51年3月)

選定作物	戸数	労働力	後継者(有)	1戸当り平均				肉用牛部門の将来の計画(戸)			農業経営の将来の志向(戸)				備考		
				耕地規模(a)			肉用牛頭数(頭)		増頭	現在	減少	①	②	③		④	
				水田	畑	その他	計	現在									将来
甘しよ	1	2.0	0	0	350.0	0	350.0	9.0	12.0	1	0	0	0	1	0	0	将来の志向 ①肉用牛単一型 ②肉用牛が主で他作物従 ③肉用牛が従で他作物主 ④その他
米+甘しよ	15	2.6	7	57.7	183.5	0	241.2	7.7	10.6	12	3	0	4	9	1	1	
米	11	2.1	2	82.6	137.5	0	220.1	9.1	11.4	9	1	1	3	7	1	0	
茶	10	2.3	3	40.3	168.8	75.0	284.1	10.7	14.8	5	5	0	1	6	2	1	
果樹(みかん)	14	2.7	6	63.9	113.8	139.3	317.0	7.1	7.5	4	10	0	0	9	5	0	
煙草	22	3.2	11	77.9	191.1	0	269.0	7.8	9.7	11	9	2	0	6	15	1	
養蚕	21	2.8	9	71.1	83.8	62.5	217.4	6.8	11.2	13	8	0	2	11	8	0	
園芸	47	2.6	26	58.9	165.1	0	224.0	7.1	10.4	30	16	1	4	27	14	2	
計	141		64							85	52	4	14	76	46	5	
平均				64.2	153.3		246.0	7.6	10.5								